

平成26年度宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	平成26年度宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	平成26年7月16日(水) 18時00分～19時50分
場所	宇治市役所 6階 602会議室
出席者	<p>(委員) 榊原会長 薮副会長 鬼界委員 奥村委員 田邊委員 松井委員 伊家委員 大越委員 肥川委員</p> <p>(事務局) 石田教育長 中村教育部長 畑下教育部次長 藤原教育部次長 上道学校教育課長 市橋一貫教育課総括指導主事 海老瀬一貫教育課総括指導主事 野口一貫教育課特別支援教育係長 信太一貫教育課指導主事 姫野一貫教育課指導主事 赤野一貫教育課指導主事</p>
配付資料	平成26年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 平成26年度中学校ブロックジョイントプランー小中一貫教育推進計画ー
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石田教育長 開会挨拶</li> <li>・各委員自己紹介</li> <li>・事務局紹介</li> <li>・設置要項に基づき会長に榊原委員、副会長に薮委員を選出 榊原会長挨拶 薮副会長挨拶</li> </ul> <p>2 報告及び協議事項</p> <p>(1) 報告1 平成25年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要 資料(6頁)に沿って事務局より説明</p> <p>(委員) 全委員が訪問して協議の後に、視察についての感想文を事務局に送付したが、あのフィードバックはどのような形でなされたのか?</p> <p>(事務局) 昨年度3月に発行した「宇治市の小中一貫教育」という広報紙の中でコーナーを作り、委員の方からいただいた感想について、主だったところを掲載し、広報活動にも用いた。</p> <p>(2) 報告2 平成25年度小中一貫教育の取組到達状況報告 資料(7頁～)に沿って事務局より説明</p> <p>(榊原会長) 「宇治スタンダード」は小・中を支える大きなカリキュラムで柱になると思うが、このポイントはどのあたりになるのか?</p> <p>(事務局) 本市小中一貫教育の全面実施、並びに指導要領の改訂に合わせて、本市小・中学校教員が協働して作成した年間指導計画の基本となるものである。指導計画の各単元において、その前の学年及び後ろの学年で関連した学びを行う単元名を記して、指導する教員がこれまでに習った</p>	

こと、またこれから先に習うことを踏まえて、その単元の指導計画が作成できることをねらいとしている。

(委員)

地域での夏祭りなどで子どもと会う機会が多いけれども、そこで中学校の英語の先生が小学校へ来られることが楽しみであるということを知った。そして自分のお兄ちゃんが中学に入学して担任の先生がその先生になったということを知った。これは今までには無かったことである。

また小中一貫教育というのは小学校と中学校をつなぐだけじゃなくて、去年1年間で感じたことは同じ小学校同士がスタートラインを揃えて一つの中学校に行くということである。今までであれば同じ中学1年生であってもA小学校とB小学校を卒業した子というのは様々な点で違い、コミュニケーションをとることが難しかったと思う。けれども、ある程度、小・小連携が進んだように思うのが去年である。その前は小・中ということしか頭に無かったけれども、去年に関しては小・小連携が進んで、中学校へのスムーズな送り出しというのができたのではないかと感じた。

(委員)

わたしは民生委員、主任児童委員として小・中学校単位で子ども全般を担当する役割をしている。そのひとつに子育て支援として小さなお子さんと保護者の方を集めて、お友達をたくさん作りましょうというつどいの広場を企画している。年に何回か大久保小学校を借りるのだが、「宇治ひろの学園大久保小学校」と大きく書いてあるので、若いお母さん方は「ここは私立ですか、公立ですか」という質問をされることがある。

小さい子どもを持っているお母さん方からすれば、小中一貫教育については理解されていないけれども、会話を聞いてると「なんか宇治はいいらしいよ」というのがチラッと聞こえてきて、「よそと違ってがっちりとした感じで小・中もかなり熱心にやってるし、公立でも大丈夫よ」というような情報交換をされてる。

一方、わたしが学校評議員をしている大久保小学校の授業参観の後に行われた学校説明会では低学年の保護者だと思っただけでも、「中高一貫教育はよく耳にするが、小中一貫教育って何ですか」という質問をされた。その質問に対して校長先生が丁寧に中一ギャップを含めて説明されていたが、やはりまだまだ浸透できていない点もある。在学児童がいればわかってくるし、わたしも見ていて大久保小学校、大開小学校と広野中学校の連携がすごくよくできていると思う。最近では民生委員として先生方とのコミュニケーションもとりやすい。3校が一堂に集まり、話やすいので民生委員の活動としても非常に楽になったところがある。

(委員)

地域関係委員の方からプラスの評価をいただき、学校をお預かりしている校長の一人として大変嬉しいと思って聞かせていただいた。

到達状況の中で、小学校高学年の教科担当制の定着について状況を掴んでおられたら伺いたい。

(事務局)

小学校では担任の先生が全ての授業を担当するという学級担任制が基本であるが、例えば担任外である教務主任の先生が書道を担当するといったような仕組みを教科担当制と呼んでる。これは学校により、クラス数により変わってくるのだが、確認しているところでは、本市小学校では時間数の差はあるものの、全ての小学校で教科担当制を実施している。つまり宇治市の小学校6年生は担任外の先生の授業を必ず受けているということである。

また教科担当制とは別であるが、現在小学校においても少人数授業を実施しており、例えば2クラスを3つのグループに分割し、1名の加配教員が担任と合わせて3名の教員で2クラスの3グループを受け持つというような授業形態もとっているところである。そのような場面でも担任以外の先生が授業を受け持つことができている。

(3) 報告3 平成26年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動(案)

資料(11頁～)により事務局より説明

(会長)

昨年度を踏襲してというところと、いわゆる気軽な学校訪問のあり方をどのように具体化、実効性あるものにしていくかが論点かと思う。昨年度の場合でいうと、各学校からどのくらい視察の候補を出していただいたのか。訪問は1回なのか、複数回であったのか。

(事務局)

取組視察については、ブロックの取組を対象としているので、委員さんにお示ししたのは各ブロックひとつの取組である。

気軽な形での訪問については各校独自の行事などを複数回示していただいたので、正確な数は記憶していないが、相当数であったと記憶している。

(会長)

取組視察については学校関係者の委員の皆様にとっては学校としてもより意味があるように進めたいと思うがご意見いかがか？

(委員)

小中一貫教育を進めて3年になるわけだがブロックという意識が定着してきたように思う。様々な場面で中学校ブロックでという話ができるし、子どもたちもそのような意識をもってきたと感じる。

取組視察については、今、学校に参観に来ていただいても小・中合同の取組がそれほど年間には多くはないので、その機会は少ないと思う。例えば中学生が小学校へ行って職場体験するとか、小学校の児童が部活動と一緒に練習するとか、そのようなことはあるが全ての生徒を対象にしてというのは本校では1回である。数年前に教師の研修を見てもらったこともある。合同研修は年1回必ずやっているが本ブロックとしては全教員が一堂に会するのは夏休みだけしかできていない。数年前は何回かやっていたが、教師の負担と時間的な課題があり、あとは各部会ごとに実施している。

各学校の単独の取組となると、極端な話、別にいつでも見てもらえればと思う。

(委員)

自画自賛ではないけれども、かなり小中一貫教育の取組は進んでいるということを感じている。逆に言えばここまでいろいろ創り上げてきているので、今後これを継続するにはかなりエネルギーが必要である。更にもっとということになると今の条件を大胆に変えていかないと厳しいものがある。

具体的な課題は小・中のパイプがまだまだ細いことである。小中連携加配教員やコーディネーター以外の教員が他校種の子どもと関わる場面はまだまだ少ない。そこを解決するのはかなり難しいと思う。

もうひとつは各学校は様々な課題を抱えており、いろいろと取り組んでいるが、中学校でいうと家庭学習が大きな課題となっており、これについては保護者の協力が必要であるが、現状では保護者や地域に働きかける取組が弱いと感じている。

(会長)

気軽な訪問については、事務局として随分苦心してセッティングされているけれども、なかなか各委員さんも忙しいので行けないということがあり、もったいない状態である。私自身もなかなか都合がつかず、言い出した本人ではあるけれども実現できていないということで心苦しく思っている。気軽にといういい方はともかくとしても、行けるようには思っているのだが、やはりブロックの会議となると委員さんですという形で少し改まってしまうと、行く方も、来られる方も少し緊張されたりということもあると思う。その辺でこのように工夫してもらいたいというのがあればお願いしたい。

(委員)

小中一貫教育関係に関わらず、外部委員に小・中学生の姿を見てもらうのが主旨であると思

うので、「中学生の主張大会」とか各学校の「文化祭」とか、「体育大会」などで、がんばってる姿も、見ていただきたい。今度の部活動夏季大会などでも見られたことがなければ、中学校としてはその姿も見ていただきたい。

また、各中学校でそれぞれ取組をしているので、日頃の授業を見てもらうのも一つであるが、地域で見られたことのない子どもたちの姿を学校行事において見ていただけるのではないかと思う。本当はそのような場に小学生を招待できたらいいのだが、本校の体育大会や文化祭においてはキャパシティの関係で無理である。そのような交流もできたらよいと思う。

(会長)

案内いただいて行けるところへ行ってくださいという感じでよろしいですかね。

(委員)

学校としてはお越しいただくことは大歓迎である。ご意見をいただくことも大変参考になるので是非ともたくさんお越しいただきたい。

(委員)

中学の教師としては中学生の頑張っている姿をいろいろ見ていただきたいと思う。

(委員)

特に宇治黄檗学園では外部からの見学が多くはないのか。先生方の負担にはなっていないのだろうか。

(委員)

それは仕事だと思っている。たくさん来ていただくことについては可能な範囲で対応したいと思っている。

(委員)

ケースバイケースであろうが、例えば一人で行くのはちょっと抵抗がある場合に、例えば委員さんのお知り合いなど、一緒にみたいな形でも参観は可能なのだろうか？

(委員)

学校公開としている土曜参観などでは地域一般にも公開しており、基本的には誰が来ていただいても結構である。体育大会、文化祭についても地域に公開もしているので参観は可能である。

(事務局)

基本的には学校公開日の参観は可能である。事務局ができる限り情報提供をするということ、そしてその上で通常の日については、希望があれば事務局が校長先生と調整した上で可能な限り実現する方向で進めていきたいと考える。

(会長)

本年度の小中一貫教育推進協議会の活動について、説明があった内容で進めて行きたいと思うので確認していただきたい。

では、意見がないので、本年度の活動については説明の通りと確認させていただく。ありがとうございます。

それでは本年度本協議会としては昨年度に引き続き、小中一貫教育の全般についての進行管理を中心に活動を行う。このために2回の協議会、それから2学期の各中学校ブロックでの取組視察を行うことに加え、自由参加の形式ではあるが2学期あたりを目途として各小・中学校での授業参観やオープンスクール、公開行事等に参観できるように事務局から情報提供していただきたい。後日事務局より視察日程調整の連絡などをしていただくので、委員の皆様はご多忙とは思いますが参加をお願いしたい。

(4) 報告4 平成26年度宇治市小中一貫教育の取組について

資料(12頁～)により事務局より説明

(会長)

今の説明につきまして、希望、意見を頂戴したいと思う。いかがでしょうか。

(委員)

家庭学習促進実践事業は宇治市が独自で取り組んでいただいております、今年もまだ指定年度です。この事業の取組を参考にしてという部分が2カ所にこめられている訳ですが、いわゆる2中学校ブロックでされていることが、その他の中学校ブロックに普及するような取組が目に見えていないという現実がある。我々が積極的に勉強する姿勢がないからということになるのかも分からないが、この2年間がかりでやられていることで、具体的中身について他の中学校ブロックは知らないというのが実情かなと思うのだが、そのあたりの成果普及、波及について、どのような考え方なのかを整理をしてほしいということがひとつ。

また、この事業はいわゆる小中一貫教育というくくりの中の事業ではなくて、宇治市全体の学力充実施策として打ち出されたのではなかったのかなと思っているのだが、小中一貫教育というフィールドの中の話なのか、いわゆる小中一貫教育のねらいのひとつは学力充実である訳だが、そのあたりを事業の位置付けについて教えておいてほしいと考えている。以上の2点です。

(事務局)

まず、家庭学習促進実践事業についての説明であるが、宇治市の研究指定事業として25年度26年度の2カ年計画である。これまでも学力充実を目指してきたが、ここでは授業以外の場面で自主的な学習意欲のもとに学力を高めていくということを目指す中で家庭学習を切り口として、その定着を図るための研究を指定したところである。

西小倉中学校ブロック、広野中学校ブロックの2ブロックがその指定を受け、家庭学習の定着に向けた取組を進めているわけだが、市教委としてはブロックの取組や成果を他ブロックにも広めてほしいと考えている。この研究指定に限らず、指定ブロックで家庭学習が定着すればよいということが最終目標ではなく、指定を受けたブロックがその成果を市内全小中学校に広めて、宇治市全体の財産にしていくということが全ての研究指定には共通するものと考えている。その意味で各ブロックにも広げていくというメッセージを出しているところである。

昨年度については中間報告会として市立全小・中学校の先生方を対象にした中間報告会として2ブロックからの報告を行った。また教頭会においても研究の報告をしていただいた。今年度については最終年度ということで最終報告会を予定し、成果物、資料等についても作成する予定でいる。

ただ、委員が言われたようにそれが十分なものであるかということ、まだまだ見えてこないという点からも課題はあるかと思う。今いただいたことばを受けて、更に広める工夫をしていきたいと考える。

2点目の小中一貫教育との関連では、本研究指定は学力充実をめざしたものであり明確に区分すれば小中一貫教育のくくりとは別のものであるといえる。

ただ、宇治市の教育は小中一貫教育を柱として位置づけており、宇治市の教育を進める上で全ての取組について、小中一貫教育の視点から考えることは必要となる。また、本市小中一貫教育の取組の中で地域保護者との連携にまだまだ課題があるが、この課題を克服していくにあたって、家庭学習というのはひとつ大きな切り口になると考えている。家庭学習を定着させるにあたり保護者の理解や協力は不可欠なものであり、この切り口を小中一貫教育のくくりの中にもしっかり入れていくことによって、これまでの課題とされてる部分についての改善が見られるのではないかと考えている。

(会長)

ひとつお願いを申し上げますと、授業研究会で対象にしている小学生と中学生ではその発達段階、そこにある課題も異なる。系統的・継続的生徒指導と謳われているが、実際には規範意識の獲得についても、やはり小学生と中学生、特に思春期に関わり3年生にもなればやはりそれぞれの作法、スタイルが小学校なり中学校なりにあるように思う。

あわせて授業についても、例えば小学校の算数と中学校の数学では相当に教え方なり扱い方が違うところがあるように思う。よくいわれるのは「帯分数」と「仮分数」のことである。小

学校では帯分数を教えるが中学校では「忘れなさい」といわれてしまう。その点だけを取り上げれば小・中が一貫教育ではなくて、中学校でのリセット状態である。ただ学校側に立つならば、中学校の数学というのはそれでいいのだと突っ張ってもらいたい。趣旨としては一貫、継続しているのだけれども、中学生に接する上ではこういった違いが妥当なのであるということをやほり言うていただく必要があるように思う。

授業の協議のあり方についても、いい意味でそれぞれの場を主張いただいた上でお互いに「そうなんだ」ということを分かった上で、小中一貫教育の取組をやっけていけるかという話にしていただきたいと思う。

(委員)

事務局から重点目標についてのご説明をいただいたが、ちょっとヒントをいただきたい。家庭学習を切り口とした地域保護者を巻き込んだ取組という一義的には家庭学習は保護者というイメージができるのだが、それと「地域」というのがどういうイメージを持ったらいいのかなどというのが、ちょっとピンとこないのので、何かヒントをいただけませんか。

(事務局)

まだ研究段階であり、明確なものを示すことはできないが、一例では広野中学校ブロックでは中学校のテスト前部活動中止期間に大久保小・大開小学校でもその期間を家庭学習をする期間に位置づけて、地域にもメッセージを出して取り組んでいる。取組については保護者の方に理解をいただいているわけだが、地域の方にも発信をし、地域全体でこの時期は子どもたちが勉強する期間なんだという認識を持っていただくという取組を進めている。それがどこまでの効果があるものなのかということはこれからの検証であるかと思うのだが、様々な形で地域に発信をしていく中で逆に地域からも様々なアドバイスをいただく。それが何か形となり、これからでき上がっていくのではないかと考えている。学校からの発信は保護者だけでなく地域ということも前提としていくことが必要ではないかと考え、これからどのように展開していくかということの研究していきたいと考えている。

(榊原会長)

それでは、いくつかのお願い、リクエストがあったかと思うが、そうしたことを事務局を先頭に学校の方で考えていただきながら、よりよい小中一貫教育ができますようお願いするという次第にさせていただきたいと思う。

#### (5) 報告5 小中一貫教育のアンケートについて 資料(17頁～)により事務局より説明

(会長)

総数はどのくらいの規模になるのか。

(事務局)

2500あたりが対象になるが児童生徒とその保護者となるのでその倍となる。小学校5年、6年、中学校1年、2年、3年、各学校1クラスずつ抽出をしており、どの学校からも学年1クラスはアンケートに答えていることとなる。

(会長)

じゃ、5000ぐらいですか。わかりました。これはもう想像がつくと思うが全て事務局の手仕事であるので、大変なご苦労いただくことになる。またアンケート結果を第2回目の協議会で報告されることになると思う。その際またご意見頂戴できればありがたい。

#### (6) 宇治市小中一貫教育への期待と希望

(会長)

以上で報告協議は一通り終えたが、重ねて本年度全面実施から3年目を迎えたという節目の年になる。本日協議会において事務局から様々な説明をもらった。最初の会議ということでもあるので皆様方から。小中一貫教育に対する期待と要望、またはご質問、ご意見でも結構だが、

この協議会そのものの進め方も含めて、お言葉をいただければありがたいと思う。

(委員)

今後の取組視察等を通じて小中一貫教育への理解を深めた上で意見を述べていきたい。

(委員)

会議に出席をさせていただき、資料に目を通すことによって小中一貫教育について理解することができた。ただ、このような機会がない保護者は、小学生と中学生がこんな行事で交流をしたとか、中学校の先生が小学校の授業を参観しましたとか、目に見えることしか分かってはいない。

実際にはどのような研究・研修をされているのかがなかなかわからないところがある。広報紙を発行してくださっても細部まで目を通してはいるのは一部の保護者であるようにも思う。わたしは交流面で目に見える所はあるのだが、目に見えてこない所でどうしているのかを知りたいところである。

例えば、学習の一貫性がどのように小学校から中学校へ繋がっているのか、どのように考えているのかといったことがなかなか見えてこないのがちょっと残念である。

小中一貫教育ということばだけがすごく前に出ているのだが、実際には小中一貫教育では小学生が中学生に上がる時の不安の解消とかいうぐらいにしか思っていないくて、交流面はよく見えてるけれども、学習面においてどのような研究をされているかというのはなかなか見えてこないというのが正直な所である。

先ほどの保護者アンケートでも「授業でこれまで習ったことに触れるなど繋がりを意識して指導されていると思う」と聞かれても、「分からない」としか答えることができない。わたしもこのアンケートを書いたのだけれども、やはり「分からない」という項目が多かった。だから、なかなか見えてこない部分もあるので、ていねいに一人一人の保護者に知らせることが必要であると思う。

(会長)

この場合は宇治市教育委員会になると思うのだが、改まった報告書とか大仰なものではなくホームページ上で気軽につぶやくことにより情報発信をしていただくことはできないものか。関心ある方は自分の携帯でも、ホームページ上でも見ることができる。いくつかの市町村や企業でやっているところが増えてきていると聞くが、このようなことはできないものか？

小中一貫教育だけで教育委員会が動いている訳ではなく、仕事が増えるということで事務局としては困ると思うのだが、やはり、これまでの経緯もあるだろうけど、やはり少しスタイルがオールドファッションである。アンケートをとり、分析して、どうですかというわけだが、分析、議論するのがアンケートに応えた半年後である。半年前とは季節も感じも変わっている。いろいろお願いばかりして申し訳ないが、関心を持つ方しかご覧にならないとは思いますが、何かテクノロジーも使いながらできればよいと思う。

(委員)

小中一貫教育というのは保護者としてはすごくいいことだとは思っている。けれども、例えば小学校というのはその都度、その都度、テストをするが中学校ではまとめてテストをしますよね。私の子どもは中学校になった時に、まとめてテスト勉強をするという習慣がなかったので、すごく戸惑っていた。先程、宇治ひろの学園の方では勉強する期間を意識しようとする取組をされていることだったが、やはりそのようなギャップが果たして解消されているのかという所が気になる。

(会長)

保護者・地域でと謳うのであれば尚更もっと垣根を低くして繋がれるような方略というかアイデアがほしい。

(委員)

小中一貫教育という繋がりであるが、簡単に言えば9年間の最終は進路保障であり、そこへ繋がるような目的で小・中学校が協力しながら取り組んでいく。もちろん今までも取り組んで

きたけれどもそれを一層意識しながら、様々な切り口で進めていく。例えばクラブ交流、体験学習、中学生が小学校に職場体験で行くなど、様々な切り口を持ち、取り組んでいるので、これだということ保護者の方に示すのはなかなか難しい。教師としては意識の中に9年間見通した、小学校の先生も中学校の先生も9年間見通して子どもたちがどう育っていくのかというのを地域と一緒に取り組まなければならないというのが大きな課題である。今後、様々な方法を試していかなければならないと思う。ただ、難しいのはそれぞれ教育活動を現に抱えているので、それにプラスアルファして動かなければならない。先程、委員がいわれたパイプが細いというのはそこである。施設一体型ではないので中学校から小学校へ行くにしても時間がかかる。そのような時間的な制限も抱えながら、あまり負担が大きくなるとかえってできなくなるので、そのようなことも含めた上で様々な切り口を探りながら9年間見通した教育をどう進めていくかということを探っているのが現状である。それをこれまで取り組んできてやはり意識的に各ブロックというものができ上がりつつあると思う。

(委員)

私たちは学校現場の中で動いているので、少し視野が狭いところもあるかと思う。このような会議の場で様々な角度からご意見をいただけたらありがたいと思うので、よろしく願いたい。

(委員)

今年は体制が変わり、校長会の方から2名が委員として出させていただいている。校長会長の立場として、ここで承った意見は内容により校長会の方に反映させたいと思う。

宇治黄檗学園の校長の立場では、10ブロックのうちの唯一の施設一体型であるので、機会があれば本校の進捗状況について報告をしながら、意見を承れたら有り難いと思う。

(委員)

初めての参加であったが、この協議会が私のイメージしていたものより随分敷居が高いという感じがした。各中学校ブロックごとに取組について様々な所で情報交換ができればよいという意見が出ていたが、もっと多様な分野の方が参加されて意見を述べられるように、10ブロックを3つぐらいのグループに分けて集まっていたら、小中一貫教育に関しての話せる場を作ったら、もっといろんな意見や、また違った意見も出るのではないかと思う。

わたしの子どもが小・中学校に在学していた頃も、やって初めて分かるということがいろいろあった。地域に発信しようと思えばこのような高いところの会議だけではなく、その中間ぐらいの、もっとざくばらんに話せる区分けの中で小・中学校のことを話しができればよいと思う。

(会長)

それぞれのブロックでの合同保護者会、場合によっては地域を含めてそのブロックの学校教育のあり方について、小中一貫教育のあり方について、結論は出ないでしょうけれども意見や状況を話し合いませんかみたいなことがラフな形であってもよいかもしれない。やってる所があったのではないかな？

(事務局)

東宇治中学校ブロックでは2年目になるが合同PTA役員研修会を実施している。昨年度は英語科の小中連携教員が実際の授業ビデオを上映し、実際の授業やところがけについて説明した上で、参加者が少人数に分かれて小中一貫教育についての疑問を語り合ったり、希望を語り合ったという研修会を持った。

広野中学校ブロックでは家庭学習をテーマにして小・中学校のPTA役員対象の研修会が実施された。

まだまだPTA役員対象としたものであり、もう少し対象を広げて多くの方に参加していただけるように現場の方では考えている。事務局としても現在の取組についての情報発信をすることにより、その延長線上にいくつかのブロックが集まっての研修会へと発展して行くことができると考えている。

(委員)

P T Aの合同というのは榎島中学校ブロックでも何回か実施された。先日も地域懇談会があったのだが、わたしの子どもの時代は中学校のP T Aが主催して中学校のお母さんが行くだけだったのだが今ではそのまま小学校にも連絡されている。だから、小学校のお母さんでもやはり地域のことを聞きたいという方は参加されている。今、あいさつ運動をされているが、小学校も中学校もあわせて同じあいさつ運動の月間を設定されている。同じことを取り組まれているというのは地域の者として感じる。

ただ、今言われたように地域・保護者を巻き込んだということになると、小学校でも中学校でもなかなかやりにくいと思う。地域行事として夏祭りでは小学生も中学生も来てテントを立てて合同で行うが、そのような形で、場の提供というのは小学校や中学校だけに任すのではなく、地域でやっていかなければならないと思っている。だから、力になれることがあれば、少しずつではあるけれどもやっていきたいと思う。

やはり、新聞で小中一貫教育を全国的に進めていくということを見た時はうれしかった。これからの課題としては、啓発活動だと思う。やはり小中一貫教育という名前だけが一人歩きしているような気がする。委員も言われたように、一般のお母さん方で小中一貫教育というのが、何か中学に行くだけの感じで終わるのではなく、やはりこんないいところもある、一方でこんな不安もあるというのをみんなが出し合って、小中一貫教育を本物にそして継続できるものにしていきたいと思う。だから地域としては場の提供であったりできることをしていきたいと思う。

(委員)

今もキーワードとして啓発ということばが出てきたが、わたしはこの間、本当に広報活動には力を入れてくださっていると実感している。学校のホームページ、広報紙、ニューズペーパーを見て、学校の様子がよく分かっていいなと思う。これまでは小中一貫教育を進めていますということがよく伝わり、方向性とか方針に重点を置いている時期であったという気がする。

欲張ったことをいうようだが、そもそも小中一貫教育を導入しようとしたきっかけであったいろんな課題についても、そろそろこのような結果が出ていますというコンテンツに変わっていくことを期待する。不登校の生徒数がこれだけ減りました、学力テストがこれだけ向上しましたという伝え方が最もストレートに保護者に伝わるのではないかと思う。あまり焦ってはいけないのかもしれないが、早くそういう時期が来て欲しいと期待している。

(会長)

皆さん方から意見を受け、昨年度の総括もいただいたし、本年度の計画案、取組の方向性も出していただいた。これを進行管理していくためにいろんな形で情報共有し、また学校訪問等を通じて意見を頂戴できれば大変有り難く思う。では、以上の協議をもって本会を終了します。

(事務局)

今後の推進協議会の日程について説明

### 3 閉会

・中村教育部長より閉会の挨拶